



TITLE:

きらめく動物たちの命と海:久保田  
信の白浜だより(その40)

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. きらめく動物たちの命と海:久保田信の白浜だより(その40). うみひろも 2013, 114: 14-16

ISSUE DATE:

2013-02-16

URL:

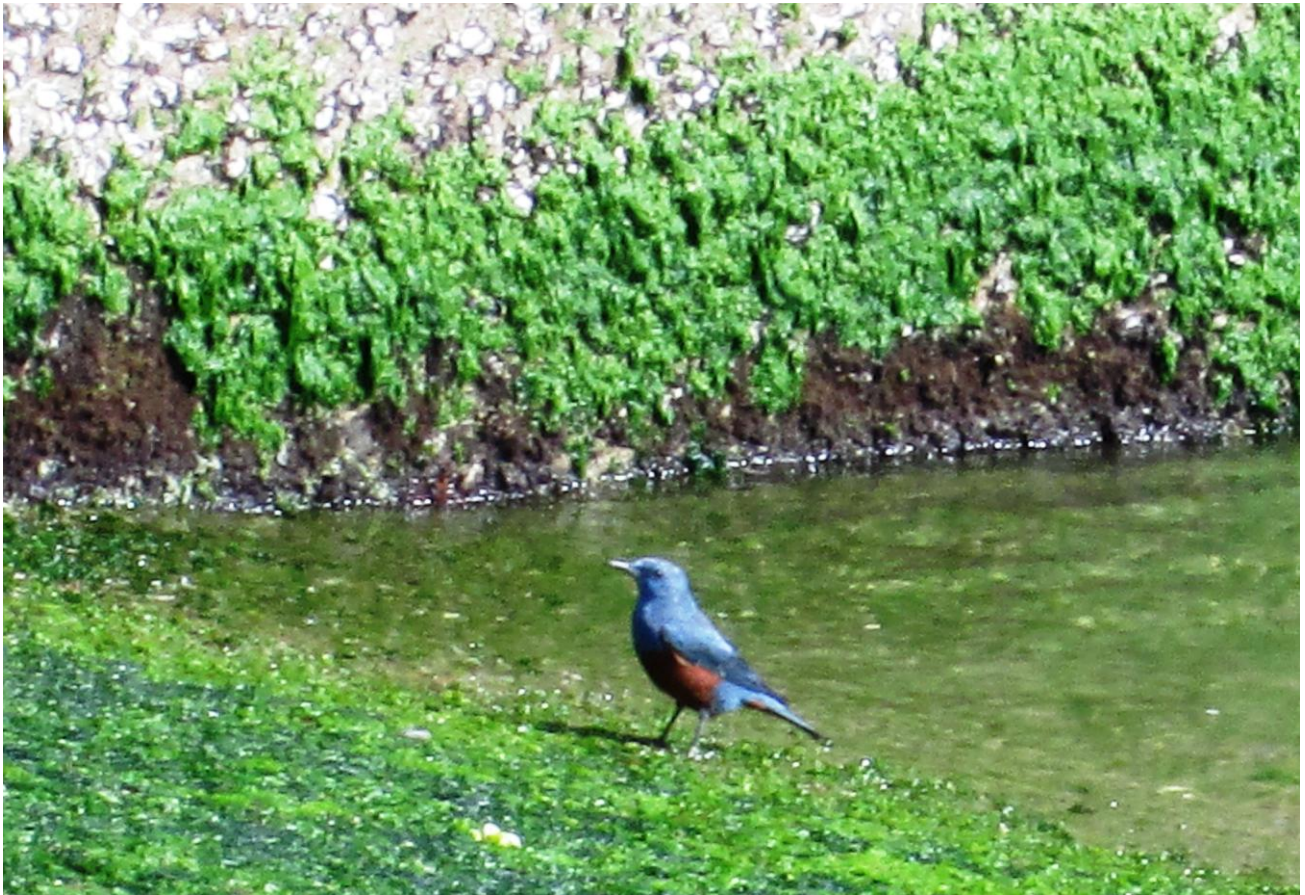
<http://hdl.handle.net/2433/180262>

RIGHT:

© 海の生き物を守る会

## 6. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その40)】

悪食のイソヒヨドリ —— 爬虫類などを捕獲



珍しく波打ち際（瀬戸漁港の岸壁）でついでにイソヒヨドリ

京都大学瀬戸臨海実験所北浜で一番よく見かける鳥は、空を舞うトビである。1日3便の飛行機が東京羽田と白浜間を往復しているが、着陸前に実験所の真上あたりを降下してくる。その際にトビが当たらないかと心配して毎日のように観察を続けている。トビはカラスと空中合戦することも見かけるが、なぜかいつも負けている猛禽だ。カモメ類は湾の入り口あたりに実験所があるせいか、ほとんどやってこない。季節によっては、ヒメウが岩礁に群れている。サギ類もたまに岩の上でなにかをねらっているようだ。砂浜には、時折チドリ類が来る。

今回の主人公のイソヒヨドリは、「磯にいるヒヨドリ」という和名のついたおなじみの鳥である。このあたり一帯の岩場などに点々として、いい声で鳴いている。イソヒヨドリは日本では北海道から沖縄県にかけての海岸で普通にみられる中形の鳥で、ツグミ科に属する。綺麗な青色の背中をした方は雄である。雌の方は鳥一般のおきまりなのだが、全身がくすんだ黒褐色である。しかし、イソヒヨドリは海岸から少し陸に入った場所でも見られる。和歌山県では、年中、普通に見られる留鳥である。

上富田町にある自宅の近くの田辺市新庄公園の野外音楽堂にも複数が住み着いている。変わった鳴き声を季節によってはたてる。この公園内で木の枝にとまっている虫を、すばやい直線的飛翔で空中捕獲するのを目撃したことがある。鳥が虫を食べるのは当たり前だが、飛んでいる虫を捕獲する技はすごい。まるでミサイルのようだ。

瀬戸臨海実験所構内では虫以外に爬虫類を捕らえた場面に遭遇したことがある。1998年6月20日午前10時15分、実験所正面入り口で1羽の雌がニホンカナヘビを1個体くわえ、そのアスファルト道路に何度もたたきつけていた。数分後にそのカナヘビをくわえたまま飛び去り、すぐに数十m先の人家の前に着地した。カナヘビが完全にのびていなかったのだろう。カナヘビをくわえたまま獲物をアスファルト道路に再び打ちつけ始めた。続いて反対向きにくわえ直し、また打ちつけた。この時、ニホンカナヘビの尾が切れた。これだけ打ちつけられたカナヘビはもう完璧にグロッキーだろう。そしてカナヘビ本体をくわえて遠くへ飛び去っていった。どっかでご馳走にありついたのである。それともひなに与えたのだろうか？

ついで、2004年9月11日午後3時頃、実験所北浜の船着場の岩礁に立つ1本の太めの木の杭に1羽の雄が止まった。しばらくすると、30mほど離れた石組みの堤防めがけてまっしぐらに飛んだ。なんと、石組みの最上部にいた体長10cmほどのニホントカゲをめがけてだった。トカゲはつかまりそうになったがうまく逃れ、石壁の表面をつたってすばやく駆け下りた。しかし、ほんの数十cm下方へ逃げたところで、すぐに捕われた。イソヒヨドリはトカゲをくわえて飛び去ろうとしたのだが、その直後に砂浜に落とした。トカゲはすばやく移動し、落下地点のすぐ傍にあった砂に埋もれ気味の小岩に寄り添いじっと身を潜めた。しかし、数分以内にそのイソヒヨドリはそこへ飛んできて、そのトカゲをすぐに見つけてくわえて飛び去った。この間、わずか数分間の出来事だった。自然界の食物連鎖の厳しさを目の当たりにした。

イソヒヨドリはこのようにトカゲ類も捕える他、節足動物のフナムシやオオムカデ類も捕えるという。実験所構内にいる細長くて大きなショウリョウバッタもなんなく捕えている。ショウリョウバッタはカナヘビより硬いと思うが、このような獲物を飲み込む際によくも喉につかえないものだと感心する。イ

ソヒヨドリは、秋や冬にはヒサカキやトベラなどの植物の種子も食べているとのことだ。このように雑食性であるが悪食とも言えよう。

イソヒヨドリはわが国では海岸に住む普通種だが、ヒマラヤの高山まで分布しているという。本種は広分布種で、東南アジアからヨーロッパまでの分布域により亜種に分割されている。学名の *Monticola solitarius* は「山に単独に住むもの」という意味である。確かに繁殖期以外は雌雄とも1尾ずつで暮らしている。実験所周辺での私の長年の継続観察でも1羽だけにいるのがほとんどだ。なわばりをつくるので、侵入者を追い払っている行動もよく見かける。営巣場所は岩の割れ目や岩棚などの自然物の他に、民家も利用して皿型の巣をつくる。つがいは4-5個の卵を産み、約2週間で孵化したヒナを育てる。ヒナは2週間で巣立つ。